

青森県総合学校教育センター

- Web上に指導例を公開、実践ノウハウを共有化 -
教員のITリテラシー向上に向けた取り組み

学校現場にコンピュータが普及する一方で、教員のITを活用した指導力の向上が大きな課題だ。そうした中、青森県総合学校教育センター（青森市・工藤幸七郎所長）では、昨年秋から、授業実践例や教材情報などを盛り込んだマルチメディアデータベース「授業情報システム」の運用を開始した。授業実践のノウハウを教員間で共有することで、スキルアップへとつなげるのがねらい。「良質なコンテンツ教材が用意され、電子掲示板で他校の先生方とも意見や情報のやり取りができるなど、指導プランの作成に大いに役立つ」と教員側からは高い評価を得ている。

県内随一を誇る研修施設

青森市の中央、陸奥湾に流れ込む荒川と駒込川との間にあるのが、平成10年4月に、青森県教育センターと県情報処理教育センターとを統合して出来た青森県総合学校教育センターだ。

同センターは、敷地（面積40,000㎡）内に、4階建ての研修棟、体育館、運動場、食堂宿泊棟があり、県内随一の施設を誇る。それに加えて、風力発電や太陽光発電といった新エネルギーを活用するなど、エネルギー対応や環境問題に配慮した施設そのものが、エネルギー・環境教育の教材ともなっている。

研修棟内に目を移すと、収容規模400人を超える大研修施設をはじめとする各種研修施設に加え、プラネタリウムなど体験型学習施設のほか、天体観測用の大型望遠鏡、ミクロの世界を探る電子顕微鏡といった最新の教育機器を取り揃える実験実習室など、充実した施設・設備ぶりだ。

また、不登校気味の児童・生徒を対象にした「こころの教育相談センター」や、障害児教育など特殊教育支援に応じた設備が整えられている。

一方、情報教育関連では、IT機器を備えた研修室や約3,000点の教育用ソフトウェアと500本ものビデオ教材を集めたソフトウェアライブラリなど、情報教育研修をサポートする態勢が十分に備わっている。

ITを効果的に利用した指導力向上で
教員研修を拡充

「教育の情報化」で、情報教育に関する研修を受け持つ同センター産業教育課指導主事の對馬祐之氏は、「ITは学力向上のために用いる有益なツール」と強調する。完全学校週5日制による授業の減少が基礎学力の低下につながるのでは、との懸念が保護者らに根強いが、「子

供の興味や関心を引き、疑問が解決する授業をつくりあげていくためにも、ITの効果的な活用は欠かせない。コンピュータやインターネットに代表される情報関連機器の活用に、教師は積極的に関与していくことが大事」と、IT活用の意義を説明する。

同センターではこれまで、主として「コンピュータの操作技術の習得」に重点を置き、役職に応じた研修を行ってきた。だが、平成14年度から方針を変え、学校の情報教育を支え



青森県総合学校教育センター産業教育課
指導主事・對馬祐之氏

る担当者を養成する「情報化推進リーダー養成」に特化した内容へと研修体制を見直した。

そのねらいは、コンピュータなどの操作は、各教員が日常の業務などを通じて習得する一方、校内におけるIT活用のための中心的な役割を担う人材を養成することで、学校全体のレベルアップを図る点だ。

14年度に行われた「情報化推進リーダー養成」講座は、「情報教育推進のための校内組織・校内研修」「情報教育研修計画の立案」「学校における情報コーディネータの役割」など、受講者の研修ニーズに合わせて多彩なメニューを用意。ネットワークの基礎知識から教科指導を前提とした校内研修の進め方まで、より実践的な内容を取り入れていた。

今後は、平成17年度を目途に、「すべての教員がコンピュータを使って指導ができる」というと、研修面を強化していく構えだ。

「授業情報システム」の活用で広がる実践の輪

教員研修の充実とともに、授業でのIT活用を促進するため、同センターでは、「教育情報提供システム」を構築中だ。その一つとして、昨年3月に、「授業情報システム」を導入、同年10月から本格的に稼働させた。



「授業情報システム」メニュー画面

授業実践事例や指導案など指導方法に関する情報を登録・蓄積し、インターネットを通して検索や閲覧が可能な点が特色。テキスト情報をはじめ、画像、音声、ビデオなどのあらゆる種類のデータを一元管理できるマルチメディア型データベースとなっている。

對馬氏は、「コンピュータを活用した授業は試行段階。どのように活用していけば子供たちに『確かな学力』を身につけさせることができるのか、頭を悩ませている。そうした中で、より多くの教師にとってIT活用のヒントを得る機会につながれば」と、導入の背景を語る。

コンテンツは、授業のねらいや学習課題のほか、学校種別や教科などに分類された基本情報に、学習形態や利用形態など学習環境情報を加えた「授業情報」 授業風景や児童・生徒の作品、授業で利用したデータなど、授業実践をよりわかりやすく伝える「メディア情報」 教科・単元ごとに分類され、紹介者のコメントを加えたリンク（「授業に役立つサイト」）や研究発表会、公開授業などの「授業関連情報」などで構成。

利用にあたっては、検索はもちろんのこと、事例などを登録する際もWeb上で行え、HTMLなどの専門知識がなくても、インターネットの環境さえあれば、「いつでも、どこでも」扱える。同時に、学年や教科、キーワードなどの検索機能に加え、必要な情報を瞬時に引き出せる高機能検索エンジンが搭載されているので、コンピュータを前にまごつくこともない。アナウンス機能がついており、指導事例など登録された新着情報があるたびに、ユーザーにメールが送られるので、一々、サイトにアクセスして更新情報を確認する必要がない。CEC（財団法人コンピュータ教育開発センター）の主催するEスクエアプロジェクトなどで実践された事例（約550件）も登録されており、授業づくりの上で、必要に応じてダウンロードができるのも特色の一つ。

同センターでは、県内の全教職員にIDとパスワードを配布。既に1月末時点で30件の授業実践事例などが登録されており、研究発表会などを迎えたこの2～3月には、「100件程度の授業情報が寄せられるのでは」（對馬氏）と見ている。

このシステムには、閲覧者の感想などを寄せられる掲示板が備わっており、「インターネットを利用して交流学习



中学校 総合学習「葉面積の測定」

を行うためのヒントがたくさん詰まっています。授業を考える上で、非常に参考になる」といった具合に、意見や情報交換の場ともなっている。

對馬氏は、「このシステムは、自由に授業情報を登録、変更することができるので、全教職員でこの授業情報データベースを育てていく、との思いで活用してほしい」と利用を促す一方で、「このシステムを活用していく中で、教師個々が、情報活用の力を高めていくことにつながれば」と期待を寄せる。

インフラ整備とともに学校のIT活用を支援

現在、県では、第3次青森県長期総合教育計画を策定し、施策の重点の一つに学校教育の情報化を置く。コンピュータ配備や校内LANの敷設など、年次計画で学校のIT環境整備を進めており、中でも、県立青森工業高校など9校を拠点校に、一般校をリンクさせた「青森県教育ネットワーク事業」に力を入れている。

県教委によると、この事業は、「学校の枠を超えた共有・交流を通じて他と学びあいながら、多様なものの考え方を知り、自らの考察を深めるなど、ITを活用した『確かな学力』をはぐくむ場」（県立学校課）とする学校IT化構想の一つ。今後、県教委では、教員の教材開発や授業設計をサポートしていくために、教育情報に関するデータベースを拡充するなど、さらに、学校のIT活用支援策を充実させていく方針だ。

「確かな学力」に向け、指導方法の工夫・改善が求められている中、ITの効果的な利用が模索されているだけに、実践のノウハウの共有化を図り、IT活用の度合いを深めようとする青森県の取り組みに、注目が集まる。

青森県総合学校教育センター

URL = <http://www.edu-c.pref.aomori.jp/>